

視察報告

Inspection Visits

上海の輸出加工区

ERINA調査研究部研究員 川村和美

7月25日～30日、国際大学、筑波大学との共同研究である「インドネシアと中国における地域経済成長と地域所得格差の分析」(文部科学省科学研究費補助金)プロジェクトの一環で上海を訪問した。上海では、復旦大学中国経済研究センターや上海師範大学の教授をはじめとする専門家・学識者と今後の研究協力の可能性や地域間格差問題についての意見交換を行った他、上海の青浦輸出加工区および中日の合弁企業(上海欣紅紡績有限公司)の工場を訪問

る機会を得た。ここでは、輸出加工区及び工場訪問について報告する。

今回訪問した上海の青浦輸出加工区は2003年3月に国務院の許可により設立された国家レベルの加工区である。

中国政府は2000年に全国に13の輸出加工区を設立した。輸向け製品を生産する企業に対する優遇措置を与え、積極的に加工区に誘致してきた。中国の加工貿易は、全国の経済開発区や保税區などで、分散して行われていたため、その区域を限定することで集中管理方式に切り替えたいという狙いで輸出加工区が設置されたのである。加工区内の企業には、加工貿易保証金台帳制度が実施されず、通関手続きの簡素化、手続き時間の短縮というメリットがある。

こうした輸出加工区の優遇措置により、輸出加工地域には多くのハイテク企業が進出した。それらの企業は中国のハイテク産業を牽引し、輸出加工区は輸出外貨獲得の重要地区として、また加工貿易の優良なモデル地区として成長している。こうした活発な企業の動きが周辺の経済を動かし、雇用拡大にも積極的な役割を果たし、輸出加工地域は中国対外貿易の新しい成長ポイントになっている。

当初設置された13の加工区にその後2カ所が加えられ、2003年3月にはさらに13カ所が加わり、現在、全国で38カ所の輸出加工区が設置されている。今回訪問した青浦輸出加工区は、2003年3月に新たに加わった地域の一つである。上海市の西側に位置する青浦工業パーク（市レベルの工業区）に位置し、面積は3km²である。区内で税関・商品検査、輸送など輸出に関する全ての手続きを行うことができ、区内の通関必要時間は先進国並のレベルに達するという。

加工区内では、日立製作所（オートモティブシステムグループ）と上海海立集団股份有限公司が自動車用スターターの製造・販売を目的に設立する合弁会社の建設が進められていた。この工場の生産開始予定は2005年1月とのことである。

雇用に伴う地域間移動の現状と賃金の実態を知るために、丸紅及び稲留紡績株式会社と上海紡績発展総公司との



写真1 上海青浦輸出加工区（入口）

中日合弁会社の工場を訪問した。この会社は94年に認可を受け、95年に設立した。現在は主に繊維系の生産を行っている。生産量の約50%が日本向けに、また約10～15%が香港や韓国などに向けて輸出されている。上海など中国国内向けに販売されるのは約35%を占める。WTO加盟後は国内販売もやりやすくなったと話していた。

従業員は270名で、かつては4組3交代で行っていた24時間生産を5月からは3組2交代制へと変更している。従業員は3交代制のときの1日8時間勤務から、2交代制になって8時間の通常勤務に4時間の残業を行うようにな

り、1日12時間労働となっている。かなり過酷なようにも思えたが、これは従業員が収入アップのために残業しても働きたいと強く希望したことによる部分が大い。もちろん、その従業員たちのレベルが高く、そうした良質な労働者を獲得できていることも2交代制へと踏み切った理由とのことであった。

従業員は上海市民（上海市戸籍を有する人）が大部分で、女性が比較的多いという。上海市の最低賃金（月給）は2003年の570元（約7,800円、1元約13.7円）から、2004年には635元（約8,700円）へと引き上げられた。これは完全実施が義務付けられており、この会社においても賃金の引上げを行った。企業側にかかる経費は賃金だけではなく、三大基金と呼ばれる医療・養老・失業保険料が月給の約4割に達するほか、住宅基金などもある。賃金の上昇に伴い、こうした保険料も上昇するため、実際の企業負担額は従業員1人当たり1,400～1,500元（約20,000円）となるという。ちなみに、賃金が高騰する上海市から少し離れた地方では、この約7割程度の経費で済むとのことである。

雇用に伴う労働者の地域間移動については、上海市政府の方針もあって、市内の労働者の雇用に努めているが中には市外からの労働者もいるとのことであった。上海市戸籍を持たない人を雇用する場合、上記三大基金の負担がなく、代わりに総合保険料として月100元を収めるのだという。基金が受けられないとのデメリットによって、極端な地域間移動を防ぐ狙いである。

懸念される上海の電力不足については、2003年は突然電力供給が抑えられ、工場での電力使用を控えるようにとの連絡が入ったことが1度あったとのことであるが、今年には三峡ダム水力発電の成果により、まだ電力は順調に供給されているとのことであった。しかしながら、上海市内では、その日の気温が35度を超えた日は、エアコンの使用率が高くなり、かなりの電力を消費するため、外灘などのラ



写真2 機械化が進む上海欣紅紡績有限公司の工場内

イトアップは停止される。訪問していた期間も連日35度を
超える猛暑で、ライトアップは停止されていた。上海の電
力不足の深刻さが窺えた。